

さくら第538号

令和 6年10月

さくら

発行所 さくらそろばん
 発行者 平瀬重雄
 春江町境 17-7: Tel.51-1337
 hirase@mx2.fctv.ne.jp



『ふだんの練習の積み重ね』

検定試験会場で受験者のいろいろな行動を覗いていると、ふだんの過ごし方を垣間見ることができ、教室での練習態度や心がまえが如実に現れています。

試験前日までの練習では、苦手な種目に対して答が合うまで、自分が納得するまで何度となく計算する人。反面、間違えていても何ら気にすることもなく、どのようなミスをしたのか気にせず、何となく時間を費やす人もいます。

能力検定試験は1級から6級まではかけ算、わり算、みとり算の3種目をまとめて30分で計算し300点満点です。1級～3級は240点で合格し、4級～6級は210点以上で合格。3種目の計算順は自由なので得意種目から計算する人や、みとり算を先にする人も多いです。

全珠連検定試験の1級～3級の種目は、かけ算、わり算、みとり算の3種目は必須ですが、伝票算、みとり暗算、応用計算の3種目は選択種目となり高点の2種目が審査対象になるので、苦手種目があっても、残りの2種目が良ければ合格できます。どの種目も15題150点満点で100点以上で合格です。

受験するということは、合格するように練習の時間と質(しつ)をアップすることです。同じ60分でも心がけの有無でその結果は大きく違います。教室に入り席につくまで数分かかる人がいます。着席してもダラダラで、そろばんとエンピツも出さずぼんやりする人もいます。

『先生、何ををするのですか?』と聞く人がいます。何をしたらいいのか自分で考えてください

と云えば『わかりません』と言うだけなので、問題集やプリントがあるでしょう。先生から言われなくても、みとり算1題でも、暗算練習など色々あるでしょう。ボンヤリしている間にできるでしょう。と促しても馬耳東風。

また、60分、1時間が練習時間ですが、教室に来て帰るまでが60分ではなく、計算し答を書いているのが60分です。と云えば理解し行動できる人は上達が早いですが、そうでない人がいます。

ところで、そろばんを使わず暗算で計算する人も、エンピツは必ず使います。ペンケースに1本しか入れてない人がいます。それも芯が減って丸くなり、書くときに木の部分が引っかかり、数字がかすれて見えます。試験なら×になります。

間違えた問題を教卓で指導していると返事する声が不機嫌に聞こえます。1時間すんだのにまだ帰られないのかと仏頂面です。

来週の日曜日は試験でしょう。同じような間違いをしないようにと思うけれど、帰る時間がそれほど気になるのなら終わればいいよ。さようなら。と言って帰りますが、下足場で友達と20分あまり話し込んでいます。

検定試験会場の玄関で受験者を待ちます。9時開始なので30分前の8時30分には会場に入り席について練習を始めるようにと、受験票に書き前日も本人に話していたのに20分前になっても来ないので3度電話すれども通じず、欠席あつかいです。

ある時は電話に出た母親に、〇〇君は今、どこに居ますかと問えば自宅と言うので、15分もあれば試験場まで間に合うでしょう。安全運転で来てくださいと伝えました。

会場を間違えた人もいたけれど、早めに電話連絡を受けたので間にあった人もいます。

試験中に、1種目終わると近くの人に声をかけ出来ぐあいを話す人がいます。緊張した空気のなかで、相手の迷惑になるような行動はダメです。合格するのだと全力でがんばっている人の姿は美しく、輝いて見えます。

とんぼつり 今日はどこまで 行ったやら 季語 Ⅱ とんぼ 加賀千代女 江戸時代の句。とんぼに糸をつけ、誘われてきたのをつるやり方